

### 3. 石器 (第21図～第31図, 第4表～第9表, 図版6・7)

総数1,158点を数える。第5表は本遺跡で使用された石材の一覧表である。調査区各層出土の石器の統計であり、遺跡全体を把握し得るものではないが、大方の動静を把むことは可能であろうと考えられる。

使用された石材は、安山岩が最も多く、全体の46.98%を占める。これに次いで輝石安山岩が24.26%、黒曜石が14.77%を占め、3つの石材に対する依存度は86.01%となり極めて高いことが知れる。

第6表から第9表は、1つの石材が各層においてどのように使われたのか、を示す一覧表である。これを見ると、黒曜石、安山岩の各種石器への利用率が高く、それ以外の石材は一定の器種にしか利用されていないことが分かる。例えば、滑石は総数14個、1.21%を占め、原石もしくは小片として存在する。これは滑石混入の土器が往時作製されたことを想像すればその原材料として他所から将来されたことを示唆するものであり、石材自体の属性によっているのである。また、砂岩は石錘としての利用も認められるが、その多くは砥石として存在し、特に骨角器等の調整・仕上げに利用されたものであろうと考えられる。総数27個、2.33%を占める。輝石安山岩は総数281個で全体の24.26%を占め、器種は別表に示す通りである。原石や打割痕を認める例が多く、石器としての利用は疑問視されたが、その出土多く、かつ全体的に丸みを帯びるものが持ち込まれているため、投弾的なものの使用或いはそれ以外の機能を想定して石器と認定し、取り上げることにした。

第4表は、各調査区および遺跡全体での組成表である。彫器の検出は1点もなかった。

以下、各調査区出土石器の説明を行うが、時間的制約があり、B・C・D区の石器群を掲載し得たのみであった。

第4表 A～E区石器組成一覧表

器種 調査区	剥片	u-f	chip	二次 加工 石器	石核	scrapet	石錐	石錐	石錐	石錐	砥石	石ノミ	石斧	叩き石	凹石	石皿	礫器	打割痕	石錘	用途不明	浮子	ナイフ?	原石	不明	石楯丁形	計	
	A	23	4	9		6	2												1	12					15		72
B	152	43	54	7	25	26	1	1	4		3		1	2				9	21	2	1	6	1	49	4	412	
C	73	16	9		15	11			1	2	4		3	2				5	21	4	1	4		20	1	1	193
D	123	34	37	10	27	35			1	5	6	2	2		1	1	2	38	5	6	5	1	61	5		407	
E	30	7	6		10	2					1		1						2			2		13		74	
計	401	104	115	17	83	76	1	1	6	7	14	2	7	4	1	1	17	94	11	8	17	2	158	10	1	1,158	
%	34.63	8.98	9.93	1.47	7.17	6.56	0.09	0.09	0.52	0.6	1.2	0.17	0.6	0.34	0.09	0.09	1.47	8.12	0.95	0.69	1.47	0.17	13.64	0.86	0.09	99.99	

第5表 石材別一覽表

調査区	層位	石材										計 %
		黒曜石	安山岩	輝石 安山岩	砂岩	結晶 岩	蛇紋岩	滑石	石英	軽石	不明	
A	I	6	29	25		1	3	1				65
		9.3	44.6	38.5		1.5	4.6	1.5				100
	III	1	5	1								7
		14.3	71.4	14.3								100
B	II	4	16	25	2	1	1	1			1	51
		7.8	31.3	49.0	3.9	2.0	2.0	2.0			2.0	100
	III	11	30	20	1		1				1	64
		17.2	46.9	31.2	1.56		1.56				1.56	99.9
	IV	4	19	4		1	1				1	30
		13.4	63.3	13.4		3.3	3.3				3.3	100
	V	51	149	29	6	10	11	5	1	5		267
		19.1	55.8	10.8	2.2	3.7	4.1	1.87	0.56	1.87		100
C	I	15	15	1			5			1	37	
		40.5	40.5	2.7			13.6			2.7	100	
	II	9	31	20	5	4	8			1	1	79
		11.4	39.2	25.3	6.3	5.1	10.1			1.3	1.3	100
	III		19	7	3		2	1		2		34
			55.9	20.6	8.8		5.9	2.9		5.9		100
	IV	2	20	18	1	1			1			43
		4.6	46.5	41.8	2.36	2.36			2.36			99.9
D	I	19	47	22	4	9	4	1	1		3	110
		18.0	42.4	19.8	3.6	8.1	3.6	0.9	0.9		2.7	100
	II	35	122	83	2	7	11	2		5	2	269
		13.0	45.4	30.9	0.7	2.6	4.1	0.7		1.9	0.7	100
	III	1	8	2	2	2		2				17
		5.8	47.0	11.8	11.8	11.8		11.8				100
	Pit	1	3	4		1	1		1			11
		9.1	27.3	36.3		9.1	9.1		9.1			100
E	III	12	31	21	1	5	1	1		2	74	
		16.3	41.9	28.4	1.3	6.5	1.3	1.3		2.7	100	
合計		171	544	281	27	42	50	14	4	17	8	1,158
		14.77	46.98	24.26	2.33	3.62	4.32	1.21	0.35	1.47	0.69	100

第6表 A・E区石器器種別一覧表

器種別	銅片	u-f	chip	二次加工石器	石核	スクレーパー	石鏃	石銛	石錐	石鏃	石ノミ	石斧(未製品)	叩き石	凹石	石皿	石器	打割痕	石鏃	用途不明	浮子	ナイフ?	原石	不明	石造丁形石器	計
黒	I 1(16.7)	2(33.3)	1(16.7)		2(33.3)																				6 (100)
安	I 18(62.0)	2 (6.9)	7(24.1)		1 (3.5)	1 (3.5)																			1 (100)
難安	I 2(40.0)				2(40.0)	1(20.0)												11(44.0)				14(56.0)			25 (100)
砂	I 1 (100)																1 (100)								1 (100)
結片	I 1 (33.3)				1(33.3)																				1 (100)
蛇	I 1 (33.3)				1(33.3)																				1 (100)
滑	I 1 (33.3)				1(33.3)																				1 (100)
石	I 1 (33.3)				1(33.3)																				1 (100)
藍	I 1 (33.3)				1(33.3)																				1 (100)
不	I 1 (33.3)				1(33.3)																				1 (100)
計	23	4	9		6	2											1	12				15			72
石	銅片	u-f	chip	二次加工石器	石核	スクレーパー	石鏃	石銛	石錐	石鏃	石ノミ	石斧(未製品)	叩き石	凹石	石皿	石器	打割痕	石鏃	用途不明	浮子	ナイフ?	原石	不明	石造丁形石器	計
黒	2(16.7)	7(58.3)			3(25.0)																				12 (100)
安	" 21(67.7)		1 (3.2)		7(22.6)	2 (6.5)												2 (9.5)				12(57.2)			31 (100)
難安	" 7(33.3)																								21 (100)
砂	" "								1 (100)																1 (100)
結片	" "																								5 (100)
蛇	" "											1 (100)													1 (100)
滑	" "																								1 (100)
石	" "																					1 (100)			1 (100)
藍	" "																								2 (100)
不	" "																			2 (100)					2 (100)
計	30	7	6		10	2					1		1				2	2			2	13			74

第7表 B区石器種別一覧表

石 器 種 別	石 器 位	剥片	u-f	chip	二次加工 石器	石核	スクレ ーパ	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	石鏃	凹石	石皿	石器	打削痕	石鏃	用途 不明	浮子	ナイフ ?	原石	不明	石造丁 形石器	計
黒	II	1(25.0)	2(50.0)		1(25.0)																			4 (100)	
	III	4(36.3)	1 (9.1)	2(18.2)		2(18.2)	2(18.2)																	11 (100)	
	IV		2(50.0)				1(25.0)	1(25.0)																4 (100)	
	V	16(31.4)	6(11.7)	7(13.7)	1 (2.0)	10(19.6)	7(13.7)		1 (2.0)	2 (3.9)										1 (2.0)				51 (100)	
安	II	12(75.0)	1 (6.3)	2(12.4)	1 (6.3)																			16 (100)	
	III	14(46.6)	3(10.0)	7(23.3)	2 (6.7)	2 (6.7)	2 (6.7)																	30 (100)	
	IV	13(68.5)	1 (5.2)		1 (5.2)	1 (5.2)	3(15.9)																	19 (100)	
	V	92(61.7)	27(18.1)	6 (4.0)	1 (0.8)	10 (6.7)	11 (7.4)		2 (1.3)															149 (100)	
輝 安	II			3(12.0)																				25 (100)	
	III			7(35.0)																		14(56.0)		20 (100)	
	IV																					7(35.0)		20 (100)	
	V			1 (3.5)																		1(25.0)		4 (100)	
砂	II																							29 (100)	
	III																							2 (100)	
	IV																							1 (100)	
	V																							1 (100)	
結 片	II			1 (100)																				6 (100)	
	III																							1 (100)	
	IV																							10 (100)	
	V			10 (100)																				10 (100)	
蛇	II			1 (100)																				1 (100)	
	III																							1 (100)	
	IV																							1 (100)	
	V			6(64.5)																				11 (100)	
滑	II																							1 (100)	
	III																							5 (100)	
	IV																							5 (100)	
	V																							5 (100)	
石	II																							1 (100)	
	III																							1 (100)	
	IV																							1 (100)	
	V																							1 (100)	
軽	II																							1 (100)	
	III																							1 (100)	
	IV																							5 (100)	
	V																							5 (100)	
不	II																							1 (100)	
	III																							1 (100)	
	IV																							1 (100)	
	V																							1 (100)	
計		152	43	54	7	25	26	1	1	4	3		2	1	6	1	49	4					412		



第8表 C区石器器種別一覧表

石 器 材	位	銅片	u-f	chip	二次加 工石器	石核	スケレ ーバー	石錐	石錐	石錐	石錐	石錐	凹石	石皿	石器	打割痕	石錐	用途 不明	穿孔	ナイフ ?	原石	不明	石 形 石 器	計	
黒	I	4(26.6)	5(33.3)	4(26.6)		1(6.7)	1(6.7)																	15(100)	
	II	3(33.3)	3(33.3)			2(22.2)																		9(99.9)	
	III																								
	IV	1(50.0)					1(50.0)																	2(100)	
安	I	8(53.3)	2(13.3)			1(6.7)	4(26.7)																	15(100)	
	II	21(67.7)	2(6.5)	1(3.2)		3(9.7)	4(12.9)																	31(100)	
	III	13(68.4)	1(5.3)			4(21.0)																		19(100)	
	IV	12(60.0)	3(15.0)			4(20.0)																		20(100)	
輝安	I																							1(100)	
	II																							8(40.0)	
	III			4(57.1)																				20(100)	
	IV																							1(14.3)	
砂	I																							7(100)	
	II																							4(22.2)	
	III																							3(16.6)	
	IV																							1(5.7)	
結片	I																							5(100)	
	II																							3(60.0)	
	III																							1(33.3)	
	IV																							3(99.9)	
蛇	I																							1(100)	
	II																							5(100)	
	III																							1(33.3)	
	IV																							1(100)	
滑	I																							4(100)	
	II																							1(25.0)	
	III																							4(100)	
	IV																							1(100)	
石	I																							1(100)	
	II																							1(100)	
	III																							5(100)	
	IV																							8(100)	
蛭	I																							2(100)	
	II																							3(37.5)	
	III																							8(100)	
	IV																							2(100)	
不	I																							1(100)	
	II																							1(100)	
	III																							1(100)	
	IV																							1(100)	
計																							133		

第9表 D区石器器種別一覧表

石 器 材	位 別	銅片	u-f	chip	二次加 工石器	石核	スクレ ーパー	石錐	石銛	石鋸	石鏃	石鏃	石鏃	石ノミ	石斧 (未製品)	叩き石	凹石	石皿	石器	打閉痕	石錐	用途 不明	浮子	ナイフ ?	原石	不明	石 冠 丁 形 石 器	計
黒	I	5(28.3)	7(36.8)	1(5.3)		4(21.0)	1(5.3)																1(2.9)				19(100)	
	II	14(40.0)	10(28.6)			6(17.1)	4(11.4)																				35(100)	
	III	1(100)																									1(100)	
安	P	1(100)																									1(100)	
	I	27(57.4)	5(10.6)		2(4.3)	7(14.9)	6(12.8)																				47(100)	
	II	63(51.6)	11(9.0)	3(1.2)	8(6.5)	10(8.2)	24(19.7)																				122(100)	
輝 安	III	5(62.5)		3(37.5)																							8(100)	
	P		1(33.3)	2(66.7)																							3(100)	
	I			7(31.8)																							22(100)	
砂	II			7(8.4)																							83(100)	
	III																										2(100)	
	P																										4(100)	
緋 片	I																										4(100)	
	II																										4(100)	
	III																										2(100)	
鱧 石	P																										2(100)	
	I	2(22.2)		4(44.4)																							9(99.9)	
	II			4(57.1)																							7(100)	
蛇	III	2(100)																									2(100)	
	P																										1(100)	
	I			1(25.0)																							4(100)	
滑 石	II			5(45.4)																							4(100)	
	III																										11(100)	
	P	1(100)																									1(100)	
軽 石	I																										1(100)	
	II																										1(100)	
	III																										2(100)	
不	P																										2(100)	
	I																										1(100)	
	II																										1(100)	
計	III																										5(100)	
	P																										3(100)	
	I																										2(100)	
計	123	34	37	10	27	35		1	5	6	2	2	1	1	1	1	1	1	2	38	5	6	5	1	61	5	407	

● B区V層出土石器 (第21図, 図版6)

V層より出土した資料で, 石鋸, 石鏃, 石錐, 搔器, 石錘, 多目的礫石器などがある。

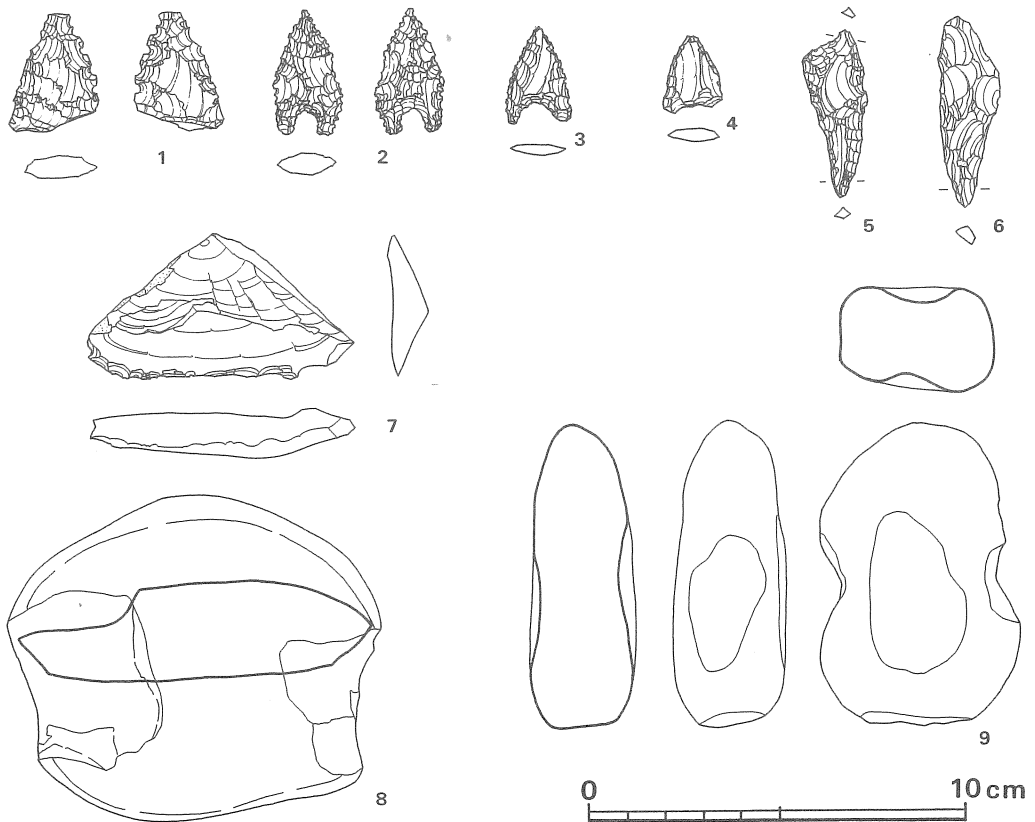
石鋸(1) 良質の黒曜石で, やや分厚い横広の剝片を素材としている。右縁のみを鋸歯状に作り出している。先端, 基部を折損する大形のものである。重量4.5gを測る。

石鏃(2~4) 2は黒曜石製で, 3・4は安山岩製である。2は縦長の剝片を使用しており僅かに先端に向かって湾曲する。素材面が認められないほどに調整剝離を行う。両縁は鋸歯状をなす。抉りは深く入れている。全体的に風化している。2.3gを計る。3は片面に素材面を残し, 4は周縁のみ調整する。4は基部を少し抉り込んでいる。3は1g, 4は1.05gを計る。

石錐(5・6) 5は良質の黒曜石を素材とし, 全面に調整を施す。上下に錐部を作出している。6も5とほぼ同様の形状, 調整を示し, 先端に錐部を作出。使用のためか稜部が少し潰れている。安山岩製である。

搔器(7) 安山岩製の横広の剝片を使用し, 両面より刃部を作出する。

石錘(8) 輝石安山岩の扁平な礫を使用し, 短辺両縁に両面より剝離して凹部を作り出す。重量は290gを計る。



第21図 B区V層出土石器(1/2)

多目的礫石器(9) 適当な名称がないためこのように呼んでおく。石質は輝石安山岩かと思われるもので、長辺には各々抉りを持ち、また短辺部には叩石と同様の潰れが認められる。また、正・背面には凹石のような凹みが見られる。用途については以上の3様が考えられるがどれが主体をなすものか分からない。重量は170gを計る。

● C区I層出土石器(第22図, 図版6)

使用痕のある剝片, 石核, 搔器, 石斧未製品, 叩石などがある。

搔器(10) 安山岩剝片を素材としたもので、打瘤を除去し刃部を作出する。刃部は左右に隣接する面を折断する際に切られている。何故に刃部を狭くする、或いは不要としたのか不明である。このように折断面をもつ例は他にも存在する。この折断面は彫刀面を作出するためのものではない。

使用痕のある剝片(11・13) 11は打面を残す縦長剝片で良質の黒曜石を素材としている。両側縁に微細な刃こぼれが認められる。13は安山岩製の横広の大形剝片で、打面を僅かに残す。

石核(12) 安山岩を素材としたもので、打面は線状をなす。4枚の剝離面が認められ、剝離後下縁を折断する。

石斧および未製品(14・15) 14は荒割りを経て周縁の調整に入った資料である。頭部位が折損したため廃棄したものであろう。左縁には原石面を残し、滑沢がある。重量は715gを計る。15は、荒割り、細調整を経て製品化されたものと思われ、一部に研磨痕を残す。乳棒状をなすもので、刃部を折損している。重量は565gを計る。共に石質は蛇紋岩である。

叩石(16) 蛇紋岩円礫を使用したもので、広い敲打面を残す。後に半割されている。

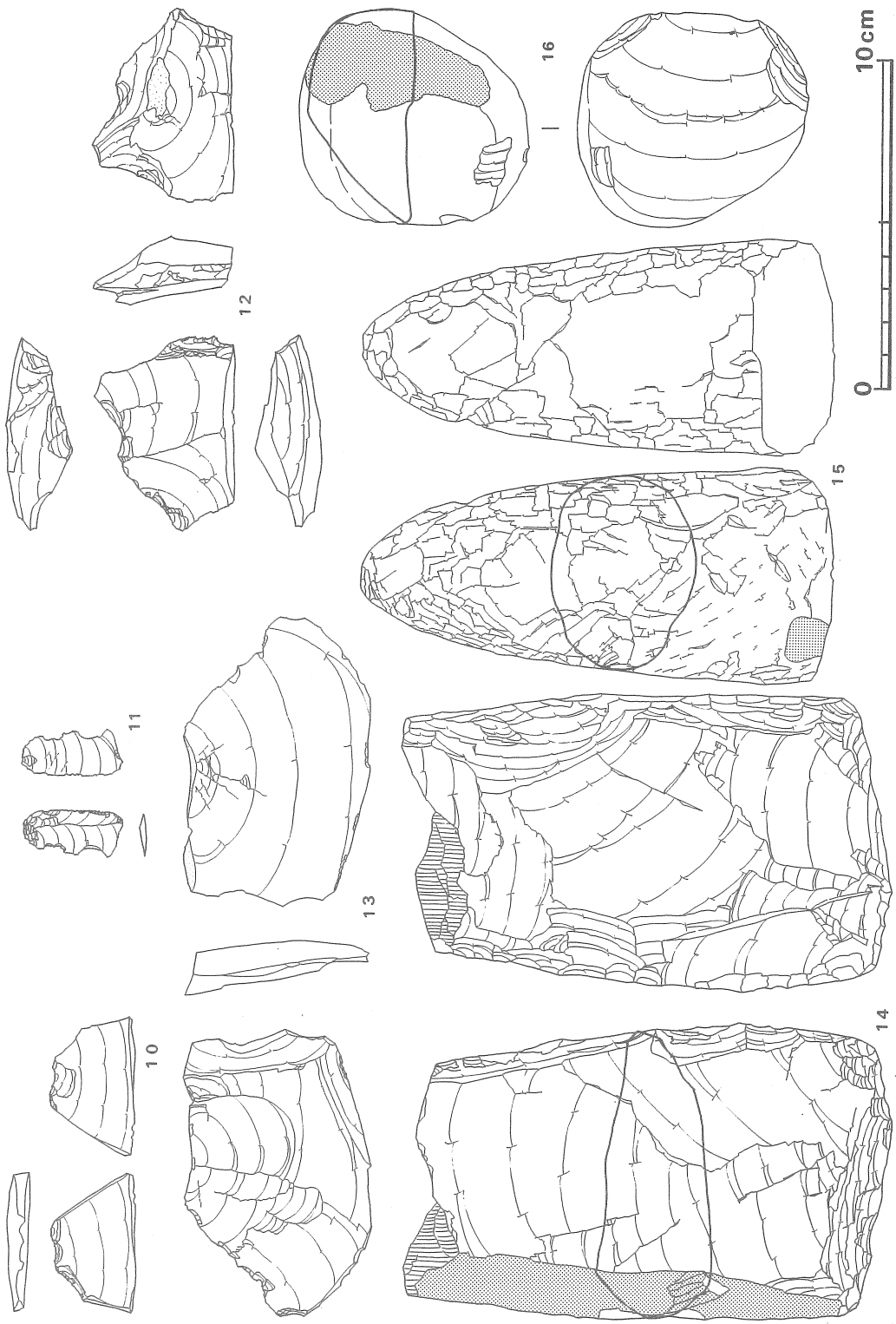
● C区II層出土石器(第23図, 図版6)

搔器, 石錐, 剝片, 叩石, 円盤状石製品, 石核, 屑片などを出土している。

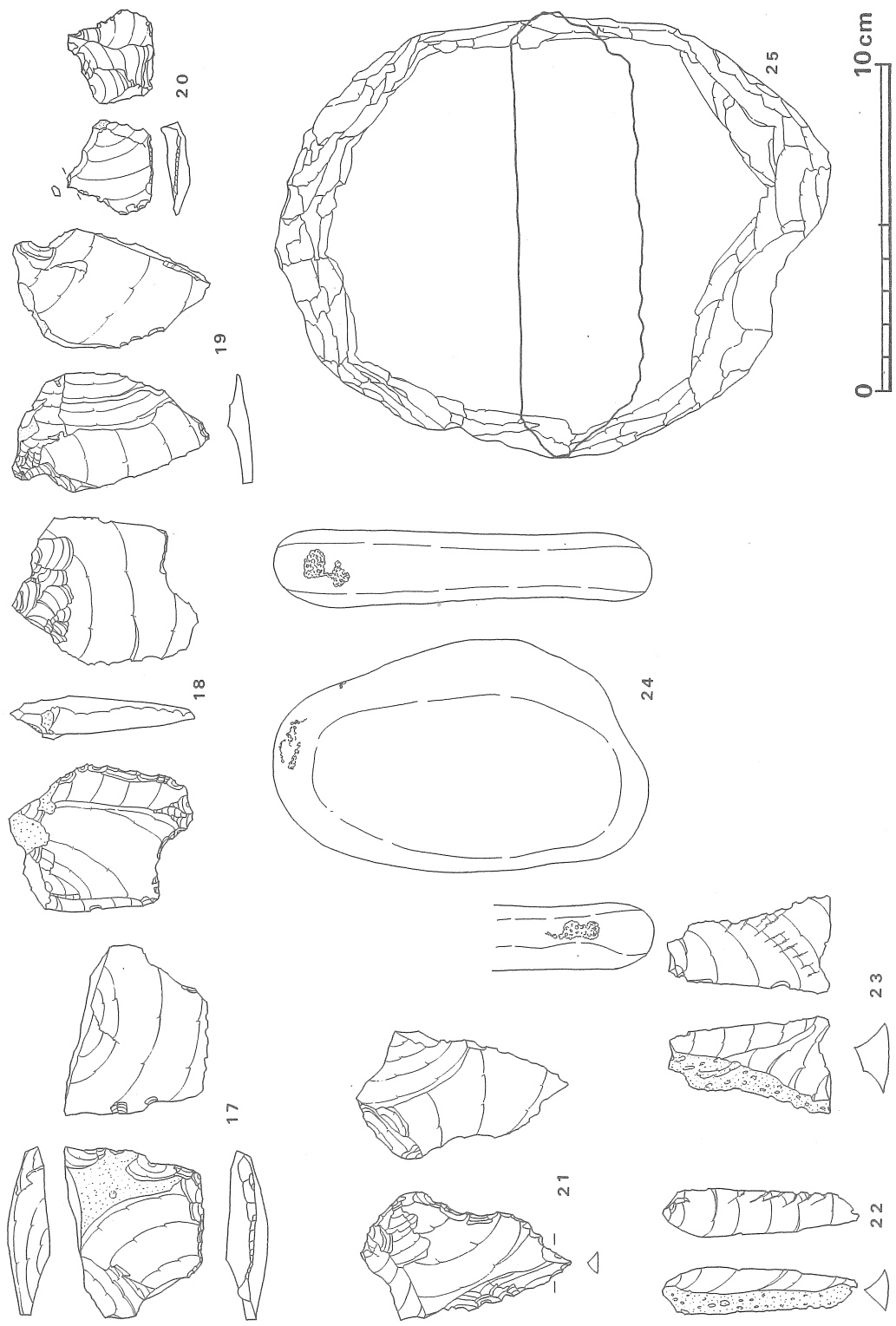
搔器(17~20) 17は横広の剝片を素材とし、下縁に刃部を背面のみから作出する。打面部は折断によって除去されている。18は打面部に自然面を留める剝片を素材としている。右~下縁にかけて背面より剝離を行い刃部を作る。下縁は意図的であろうか、抉り込むように刃部を作る。また背面打瘤部は数回の加撃により除去されている。19も打面部に自然面を残す。刃部を2か所作り出している。背面には石灰分が付着する。以上は安山岩を素材としているやや大形の搔器である。20は良質の黒曜石を素材としている。剝出された剝片を斜位に利用して刃部を作る。刃部は正面からの剝離によっている。また、刃部と対をなす先端部は錐部を作出している。搔器と錐の機能を併せ持っている。表面には擦痕を僅かに留めている。

石錐(20・21) 20は上記した。21は安山岩の大きな剝片を利用したもので、打面は折断により除去されている。本来はもう少し幅広の剝片で左側を折断している。その折断面を利用して周縁を調整し、錐部を作出する。

剝片(22・23) 共に安山岩製の剝片である。23は自然面を残すもので、角礫に近い石核から剝出されたものである。約6cmを測り、断面三角形を呈する。23も同様の石核から剝出され



第22图 C区I層出土石器(1/2)



第23图 C区II層出土石器(1/2)

たもので、大きく自然面を留める。この石核は打面を上下にもつもので、剥片の剝離痕が示している。

叩石 (24) 蛇紋岩の扁平な礫を使用しており、敲打痕が認められる。310gを計る。

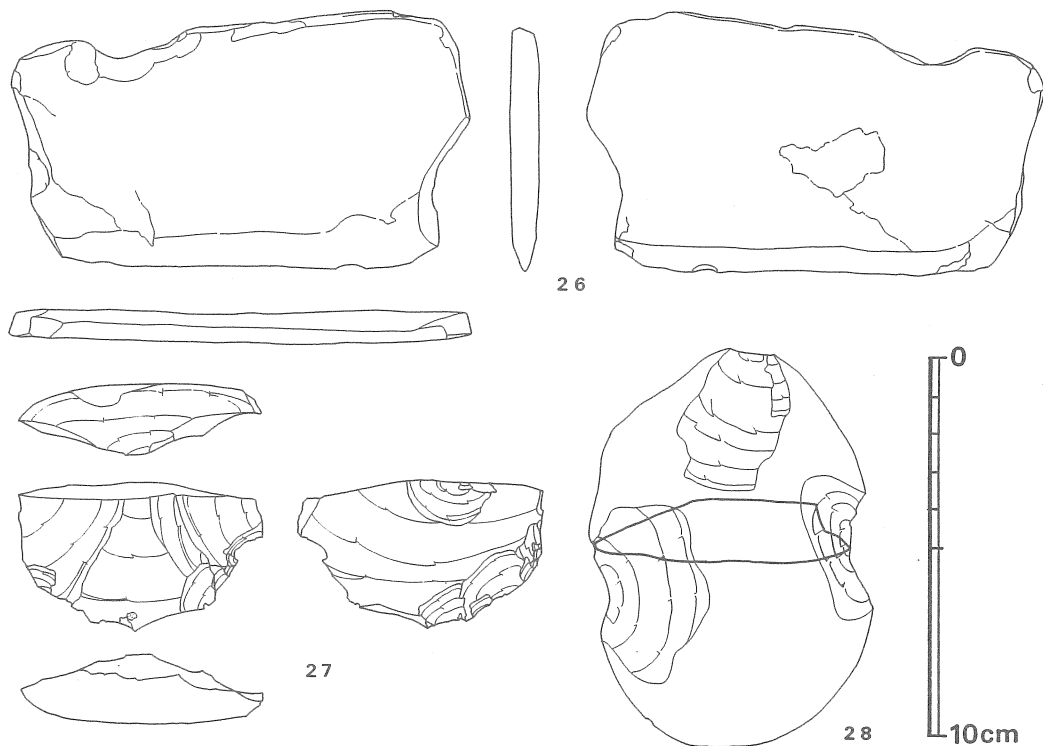
円盤状石製品 (25) 灰緑色を呈す結晶片岩である。周縁を丸く加工するもので、上面は平坦面をなし、下面は凹凸を有っている。用途不明の石器であるが、大きさからすると土器の製作台には手頃であろう。重量は1.380gと重い。

● C区Ⅲ層出土石器 (第24図, 図版6)

30点程度の出土があったが、黒曜石は1点も検出されなかった。石核、石錐、石庖丁形石器使用痕のある剥片などがその主たるものである。

石庖丁形石器 (26) 12×6.5cmほどの長方形をなす砂岩の板状石を使用している。刃部は5～10mmほどで両刃をなす。短辺は整形のためであろうが、挟り込むように剝離されている。同様の例は大正14年<sup>註12</sup>の調査の時も発見されている。半月形を呈し無孔のもので、片刃となっている。また、ヌカシ遺跡<sup>註13</sup>、草野貝塚<sup>註14</sup>、若宮遺跡でも検出されている。

石核 (27) 安山岩製で、周縁より剥片を剝取し、その後折断し再び折断面を打面として利用したもので打点を残す。背面右縁には、折断前の刃部を残し、残核を利用した搔器として機能したものと考えられる。



第24図 C区Ⅲ層出土石器(1/2)

石錘 (28) 砂岩扁平礫を半割して抉りを入れたものである。未使用であり、潰れなどはまったく看取できない。

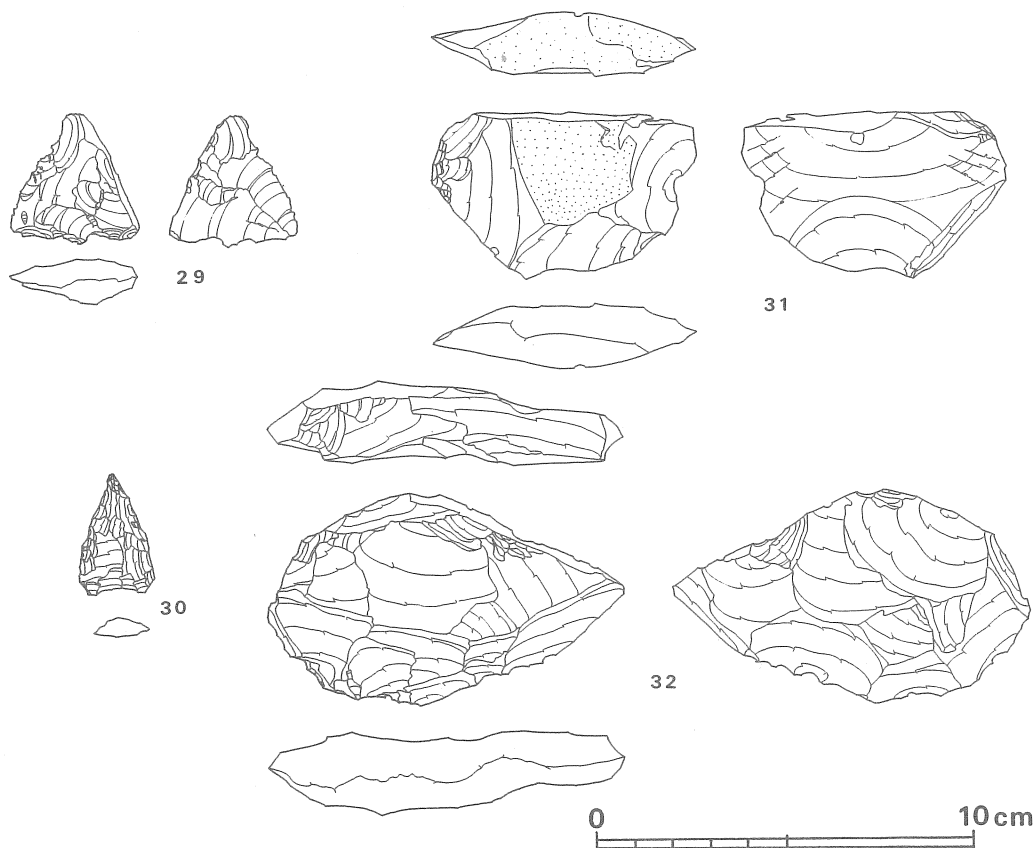
● C区IV層出土石器 (第25図, 図版6)

搔器, 石鏃, 石核, 剥片類を出土したが, 輝石安山岩が半数を占めている。

搔器 (29) 斑文の入る黒曜石を素材としている。正面は周縁より調整を施し, 僅かに素材面を残している。一見して石銛のような感を受けるが背面の調整は荒く施されている。1辺を刃部として作出する。剥離は背面からのみ行う。右縁は折断されており, この折断面を打面として背面に1枚の剥離痕がある。この石器は被熱しており, 全体に細かい亀裂が走る。

石鏃 (30) 安山岩製剥片を素材にしており, 正面は全体におよぶ調整剥離を行うが, 背面は僅かに調整するのみである。先端部は入念に加工している。基部に浅い抉りをもつ。重さ3g。

石核 (31・32) 共に安山岩製。31は大きく剥出された剥片を利用したもので, 周縁より剥離しており, 線状をなす打面である。正面左縁, 背面右縁に調整痕を認める。正面と上面打面部に自然面を残す。32は握槌のような形状の石核である。周縁から剥取しているが不規則である。平坦な打面を一部有するが, その多くは線状となっている。この石核から剥取される剥片



第25図 C区IV層出土石器(1/2)



は大きいもので幅4 cm、長さ3 cm前後の横広のものである。

● D区 I層出土石器 (第26図～第27図, 図版7)

搔器, 石鏃, 石核, 石錘など多様な石器の出土を見た。

搔器 (33～35, 38) 33～35は安山岩, 38は黒曜石である。33は横広の大形剝片を素材としており, 下縁に刃部を作っている。正面からの施刃と背面からの施刃をしている。左側縁に自然面を残す。かなり大形の石核から剝取されたものである。34も大形の剝片を利用しており, 打面部は除去されている。下縁に背面より剝離して刃部を作る。また周縁にも剝離痕を残す。35は残核を利用したもので下縁に分厚い刃部を作っている。38は上下に打面をもつ石核から剝取された縦長剝片を素材としたもので, 両側縁に背面より施刃している。

石鏃 (36・37) 36は安山岩製で素材面を僅かに留める。周縁より丁寧に調整剝離が施され, 基部は抉り込んでいる。先端を欠損。重さ1 gである。37は剝片鏃である。素材の形状を巧妙に利用したもので, 剝片の縁辺がそのまま刃部となっている。左脚は背面から正面の加撃で折損している。重さ0.4 g。

石核 (39・40) 共に漆黒色を呈する良質の黒曜石製である。39は角礫を素材としたもので, 上下・左右から剝離を行っている。上面には自然面を留める。40は残核に近いもので39同様の剝離を行っている。この両者は打面を作らず, 線状の打面から剝取する共通点をもつ。

石ノミ (41) 蛇紋岩を素材としており, 頭部を折損している。刃部は片刃となり, 所謂ノミとしての機能をもつものである。断面は略六角形を呈している。刃部には使用による線状痕と刃こぼれが看取される。

石斧未製品 (42・43) 両者とも蛇紋岩製である。荒割り, 細調整段階のもので, 研磨するまでには至っていない。

礫器 (44) 輝石安山岩の扁平礫を素材とし, 背面より剝離して刃部を作出する。重量は385 gを計る。

円盤状石製品 (45) 灰緑色の結晶片岩を薄く割り, 周縁を円盤状にして成形したものである。前出25に相似する。

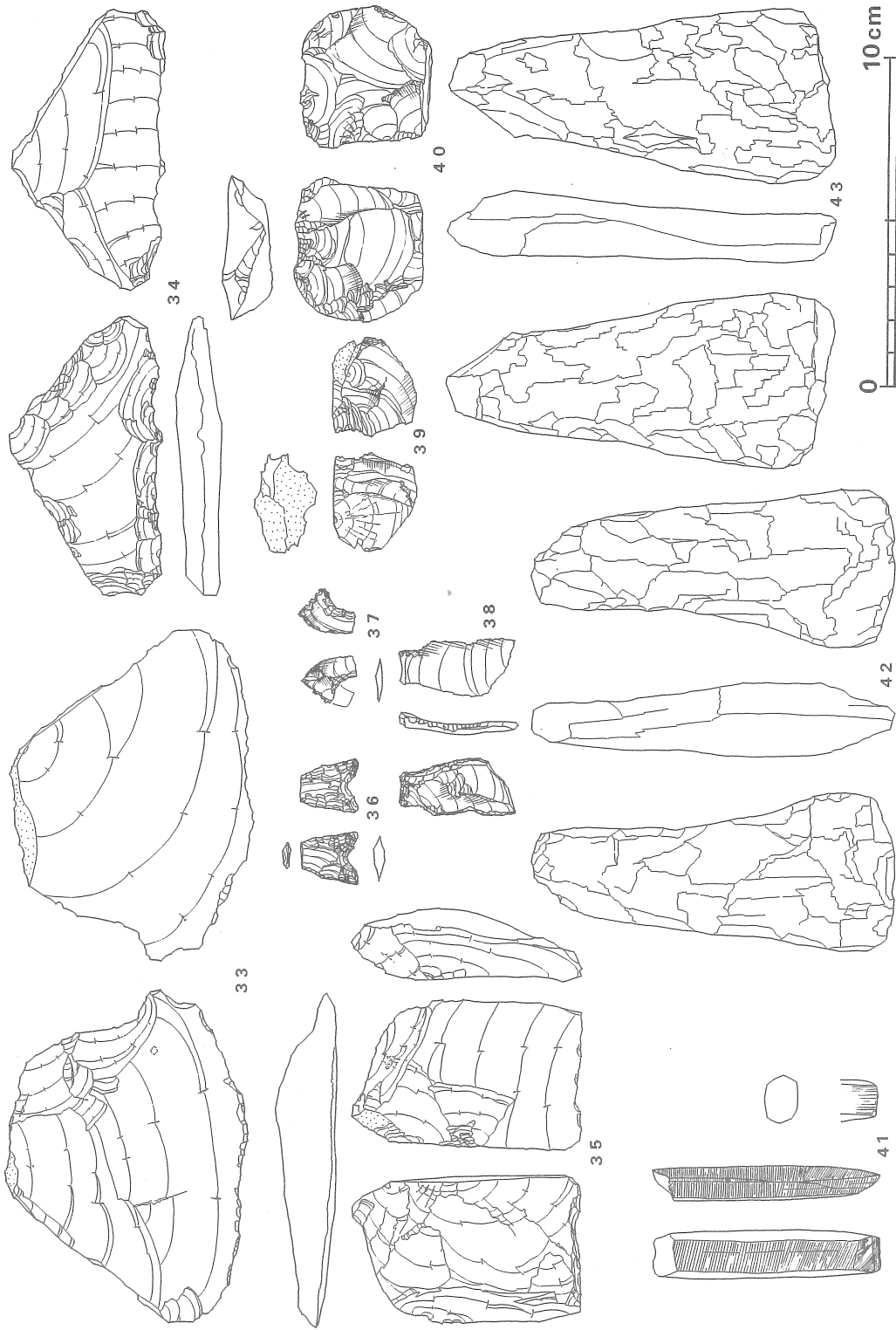
不明石器 (46) 灰緑色の結晶片岩を素材としている。周縁は丸く潰されており, 上位の方は少し欠損している。用途不明の石器である。

石錘 (47～49) 各々2か所に抉りを有するもので, 47は結晶片岩, 48は輝石安山岩, 49は砂岩を素材にしている。重量は47が280 g, 48が270 g, 49が175 gを計る。

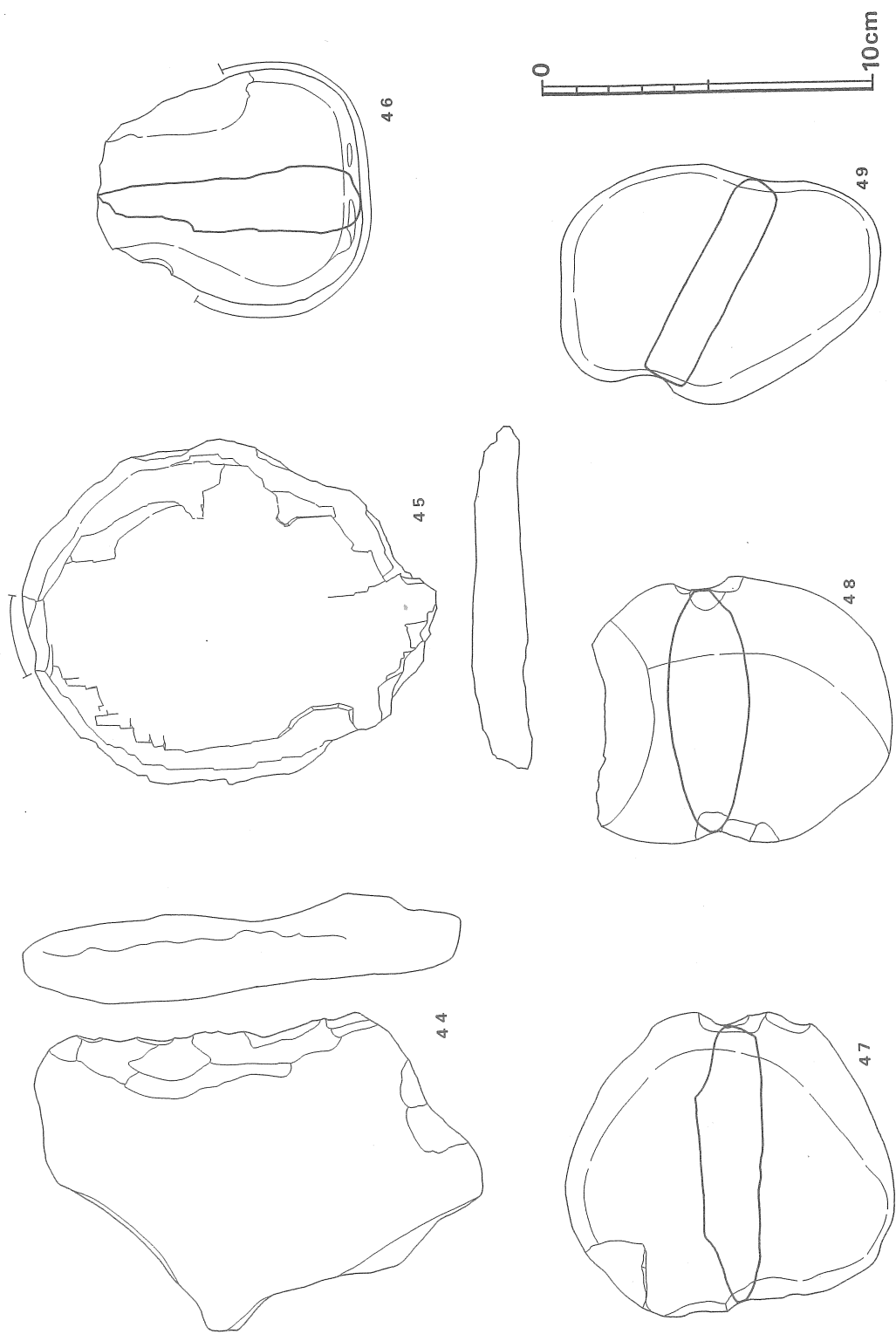
● D区 II層出土石器 (第28図～第30図, 図版7)

搔器, 石核, 石鏃, 石錘, 石ノミ, 浮子, 石皿など多種類の石器を出土している。

搔器 (50～61) 50は大きく打面を残す剝片を素材とし, 下縁に背面からの剝離で施刃している。51は縦長の剝片を横位に使用し, 両面に施刃している。ために刃部は鋸の刃のようにジグザグ状を呈する。一部に自然面を残す。52は正面と背面から分厚く施刃したもの。折断面に



第26图 D区I层出土石器(1/2)



第27图 D区I層出土石器(1/2)

も調整を加えている。53は多孔質の横広な剥片を素材としており、2か所に施刃する。下縁の刃部は背面から、左側縁の刃部は両面から施刃。54は下縁に背面から施刃。55は残核を利用したもので、背面から施刃。背面には3枚の剝離面を残す。打面は自然面を留める。56は横形の石匙状をなし、周縁より調整している。風化がかなり進んでいる。57は上下に打面をもつ石核から得られた縦長剥片を利用しており、左側縁に両面或は背面から調整を行い、刃潰し加工のような形状をなす。また右側縁は鋭い刃部をなし、刃こぼれが認められる。刃器とした方が適当かも知れない。58は分厚い縦長剥片を素材としたもので、左側縁に僅かに施刃している。59は両面より施刃しており、折断面を有する。60は残核を利用し、下縁に施刃を両面より行う。61は縦長剥片を素材にし、両側縁に背面から施刃している。これらのうち安山岩は50~56、59・60、黒曜石は57・58・61である。

石核(62~65) 62は上下・左右に打面をもつもの。63も上下・左右に打面を転移して剥片を剝取するもので、剝離面が即ち打面となる多打面をなす石核である。よって形状は大きな剥片が効率よく剝取できるように四角形をなしている。64は上下に線状の打面をもち、右側縁の折断面をも打面としている。左側縁にも折断面を有する。65は角礫を素材として3面に打面を有するものである。62~64は安山岩、65は黒曜石である。

使用痕のある剥片(67~69) 3点共良質の黒曜石である。すべて縦長の剥片で片縁もしくは両縁に刃こぼれが見られる。

石錐(70~74) 70は縦長の剥片を素材とし、先端に入念な加工を施して錐部を作出している。71は両側縁に刃潰し加工を行い、先端に錐部を作出する。72は幅広の剥片を利用して先端に断面三角形の錐部を作り出している。以上はすべて安山岩製である。73・74は蛇紋岩の剥片を素材にしたもので、先端に三角形の錐部を作り出している。

二次加工石器(75~77) 共に安山岩を使用。75は側縁に搔器の刃部を作出するが、上縁に数回の加撃をし、下縁にも看取され、かつ彫刀面のような剝離面をもつため、この項に入れることとした。76は石核か、とも考えられるが上・下縁に何回もの調整を行っており、明確な器種分類ができないため、この項に入れた。77も同様の加工痕を上縁にもっている。これらは、楔的機能を具備させた石器であろうか。

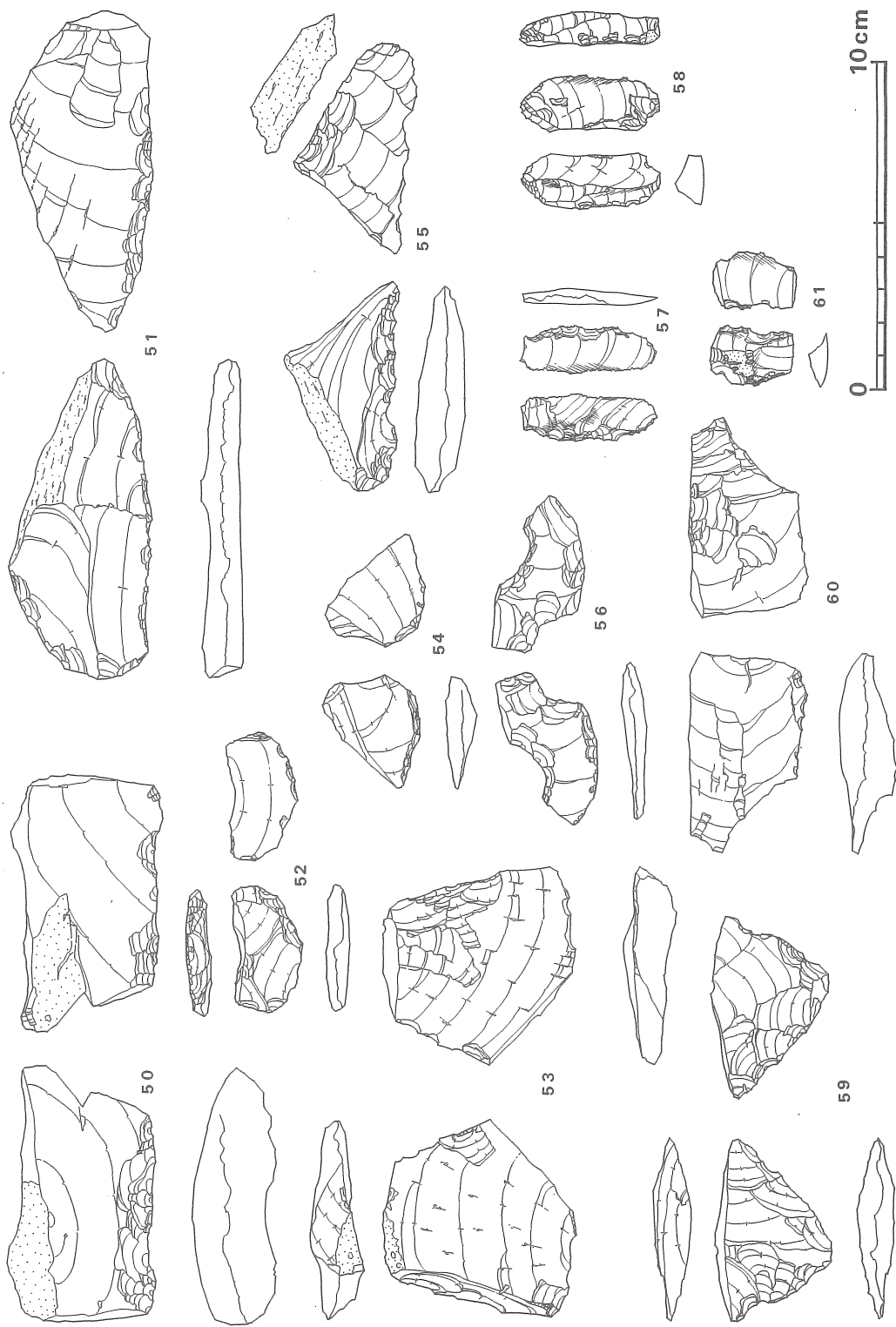
石錘(78・79) 共に輝石安山岩製で両者共長軸に沿うように抉りを入れている。78が90g、79が240gを計る。

石ノミ(80) 蛇紋岩製で頭部を欠損している。41と比較すると細身で、断面梯形をなす点が異なる。刃部に若干刃こぼれが看取される。

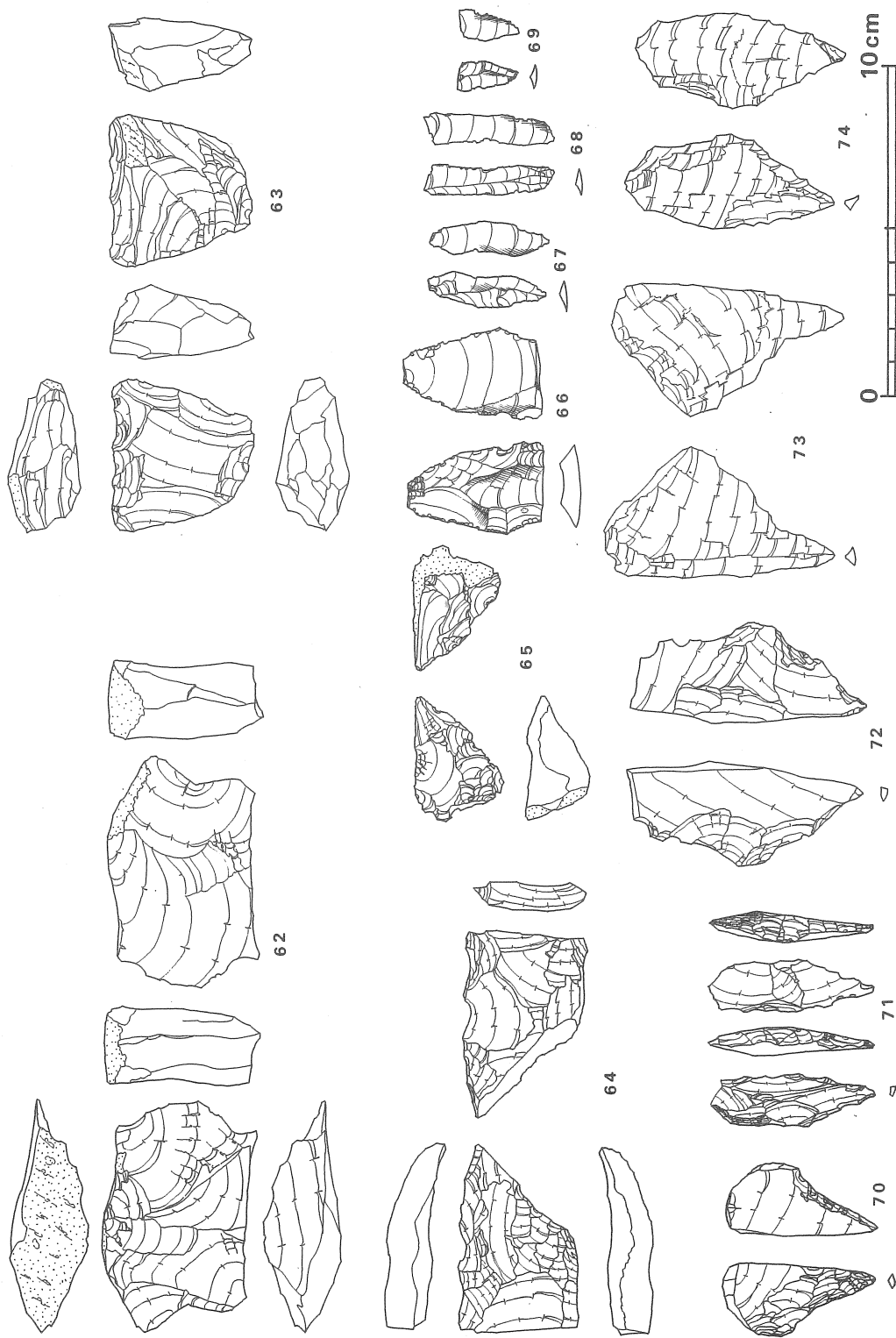
不明石器(81) 結晶片岩製で周縁は敲打により潰している。用途は不明である。

浮子(83) 16×11cmほどの軽石製浮子で、漁網に使用するものであろう。

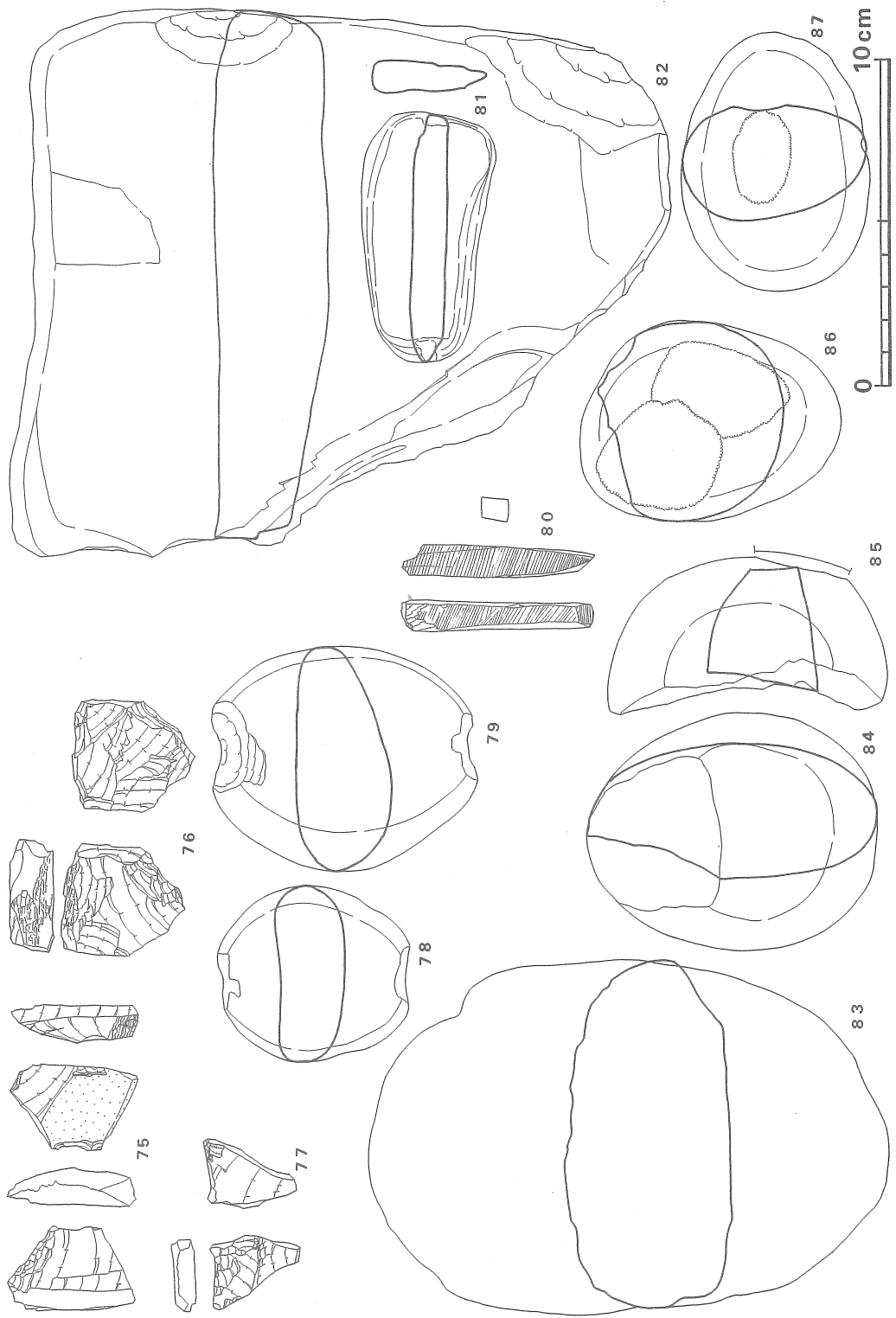
打割痕のある礫(84・85・86) 共に輝石安山岩製で、84は1か所が打割され、また85は半割品で、一部に敲打痕をもつ。86は2つの打割痕を有している。



第28图 D区II層出土石器(1/2)



第29图 D区II層出土石器(1/2)



第30图 D区II層出土石器(1/2)

凹石 (87) 輝石安山岩を使用し、ほぼ中央に  $3 \times 2$  cmほどの凹みがある。

石皿 (82) 輝石安山岩製で、中央部が周縁よりも、少し凹んでいる。

● D区Ⅲ層およびPit出土石器 (第31図, 図版7)

剥片 (88) 安山岩製で、左縁は折断面をもっている。Ⅲ層出土。

不明石器 (89) 緑色の結晶片岩で、右・下縁を潰す。用途不明。110gを計る。Pit出土。

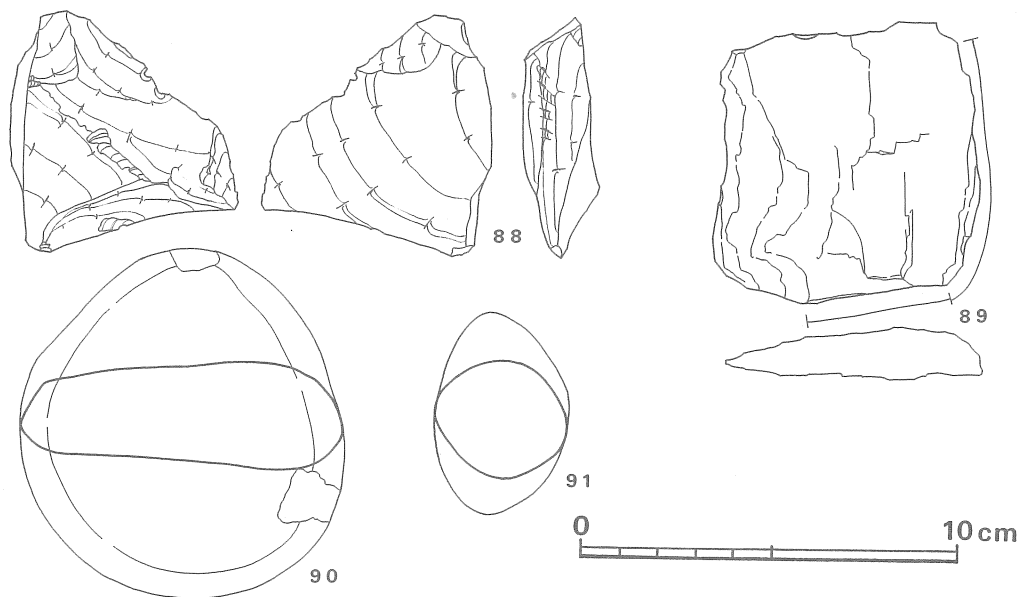
石錘 (90) 輝石安山岩扁平円礫を使用し、3か所に浅い敲打痕がある。330g。Ⅲ層出土。

投弾 (91) 略球形をなすもので、輝石安山岩である。重さ90g。Ⅲ層出土。

註12 坂田邦洋 「対馬ヌカシにおける縄文時代中期文化」 『別府大学考古学研究室報告』 第1冊 1978

13 河口貞徳 前掲註9に同じ

14 河口貞徳 「鹿児島のおいたち」 先史時代 『河口貞徳先生古稀記念著作集』 所収 1981



第31図 D区Ⅲ・Pit出土石器(1/2)